

厚生環境委員会委員協議会記録

1 会議の日時	令和3年6月3日(木)	開会 午後0時53分 閉会 午後1時52分
2 会議の場所	岐阜県医師会館 5階 大会議室	
3 出席者	委員	委員長 高殿 尚 副委員長 藤本 恵司 小川 恒雄 松村 多美夫 水野 正敏 野村 美穂 加藤 大博 中川 裕子
	執行部	出席を求めない
4 事務局職員	課長 梅本 雅史 課長補佐 棚橋 典広 主査 柘植 健太 主査 水谷 昭之	

5 会議に付した案件		
件	名	審査の結果
1	新型コロナウイルス感染症に係る医療現場の現状と課題について	
2	その他	

6 議事録（要点筆記）

○高殿尚委員長

ただいまから厚生環境委員会委員協議会を開会する。

まず、はじめに、本協議会の開催にあたり、河合岐阜県医師会長をはじめ岐阜県医師会の皆様方におかれては、大変ご多用の中ご出席を賜り、心より感謝申し上げます。また、本会場においてこの協議会を開催させていただき運びとなり、事務局の皆様方も含め併せてお礼申し上げます。

さて、本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るため、開催したものである。議題は、お手元に配付した「次第」のとおり、「新型コロナウイルス感染症に係る医療現場の現状と課題」である。

現在、本県では、いわゆる「第4波」が猛威をふるい、変異株の拡大や1日の感染者数が過去最高を更新するなど、第3波までとは、状況が大きく異なっている。こうした中、医療従事者の皆様方におかれては、医療現場の最前線で、日夜、弛みないご尽力をいただいております、心より感謝申し上げますとともに、敬意を表する次第である。

そのような皆様方から、ワクチン接種に伴う医療現場の現状や、変異株の影響も踏まえた第4波における医療現場の現状等についてご意見をうかがうとともに、必要な対策や支援等について活発な意見交換を行い、今後の県議会における議案審議等に活かしていきたいと思う。

なお、当委員会メンバーについては、参加者一覧及び配席図のとおりであり、紹介は割愛させていただく。

それでは、まず、岐阜県医師会長の河合直樹様よりご挨拶をいただく。

（挨拶・最近の感染状況を説明 河合岐阜県医師会長）

○高殿尚委員長

ありがとうございました。続きまして、岐阜県医師会の先生方より、議題についてご説明いただく。

はじめに、ワクチン接種に伴う医療現場の現状に関して岐阜県全体の取り組み状況を常務理事の磯貝様よりご説明いただく。

（説明 磯貝岐阜県医師会常務理事）

○高殿尚委員長

ありがとうございました。続きまして、高齢者接種の前倒しに対する岐阜市の状況について、岐阜市医師会副会長の高井様よりご説明いただく。

（説明 高井岐阜市医師会副会長）

○高殿尚委員長

ありがとうございました。続きまして、直近の県内の感染状況と医療体制の逼迫への対応に関して常務理事の伊在井様よりご説明いただく。

（説明 伊在井岐阜県医師会常務理事）

○高殿尚委員長

ありがとうございました。最後に、岐阜県医師会の常務理事の西野様より、資料5に基づき、各務原市の状況を踏まえながらご説明いただく。

(説明 西野岐阜県医師会常務理事)

(補足説明 河合岐阜県医師会長)

○高殿尚委員長

ありがとうございました。それでは質疑に入る。質疑は一問一答でお願いします。

○小川恒雄委員

医師会の皆様方をはじめ医療従事者の皆様方には、最前線でご対応いただき感謝申し上げます。

私自身、先日1回目のワクチン接種を終えたところであるが、ワクチン接種後は、感染対策を実施しなくてもよいものなのか。それとも引き続き実施していかなければならないのか。ワクチンを接種してもコロナウイルスに感染することはあるのか。

○河合岐阜県医師会長

ワクチン接種は、発症予防にはかなりの効果があるが、感染自体の抑制にはならない。ワクチンを接種された方で発症しない場合でも、他人にウイルスをうつすことも考えられる。また、体質等で全国民がワクチンを接種できるわけでもない。感染対策は従来どおり実施していただきたい。

○松村多美夫委員

現在の医療体制で今後のワクチン接種に十分対応できるのかどうかお伺いする。

○佐竹岐阜県医師会常務理事

現在、本巢市、瑞穂市、北方町ともに個別接種・集団接種を併用して実施している。特に本巢市においては、当初、コールセンターに予約が殺到し、予約手続きがスムーズにできないといったこともあったが、その後落ち着き、現状では、高齢者へのワクチン接種は、7月中に終わる見込みであると聞いている。

○松村多美夫委員

もう1点伺う。先ほどの国や県への要望で、8月以降についてもワクチン接種に対する補助金等の継続や後方支援病床入院患者への医療費負担のことが挙げられていたが、それ以外に要望等はないか。

○池田岐阜県医師会副会長

議員の皆様は、実際に、接種現場を見学されたことはありますか？一度見学いただけると接種作業の複雑さをご理解いただけると思う。インフルエンザワクチンのようにワクチンの原液をそのままシリンジへ充填するイメージを持たれているかもしれないが、かなり複雑である。常温に戻したあと適正な濃度に希釈し、適正量ずつシリンジへ充填していく。こうした接種前の裏方の作業が非常に大変である。加えて事務的な処理作業に関する負担も非常に大きく、1人の接種に要する時間が何倍もかかる。

○河合岐阜県医師会会長

ファイザー製は、今、池田副会長が話したとおり、非常に煩雑。これがモデルナ製になると、煩雑さの面では、大きく解消されていく。ただし、接種する側の事務処理に関しては、手間と時間がかかり、負担が大きいため、事務の簡素化をお願いしたい。

○水野正敏委員

資料2に記載してあるが、医療従事者のワクチン接種について、接種に関する2次募集等がなかったため、未接種の方がいらっしゃるとのこと。資料では、現在その対応について県と協議中とされているが、今回のコロナ対策において要となる医療従事者の方へのワクチン接種は最も重要であり、即座に実施すべきものと感じている。現状の協議状況について教えていただきたい。

○河合岐阜県医師会会長

高齢者用ワクチンを医療従事者に充てることについてお願いしている。一部の市町村では、高齢者用ワクチンは高齢者へ、医療従事者用ワクチンは医療従事者へと明確に区別している市町村もあったが、県からも働きかけてもらい改善している状況である。現段階では、2回目の接種が完了していない医療

従事者もいるが、医療従事者を優先的に接種してもらえよう働きかけもしており、急ピッチで対応している。また、新規入職者に対しても、一般の医療従事者と同じように優先的に摂取できるよう対応している。

○加藤大博委員

医療従事者の接種について、目途が立っていない方はどれくらいいるのか。医師だけでなく、看護師等も含めた医療従事者全体について伺う。

○高井岐阜市医師会副会長

現段階では、1回目接種は完了。2回目接種が終わっていない方は1割未満で、6月中旬には完了する見込みである。

○加藤大博委員

医療体制の逼迫への対応として、自宅療養に関して研究されているとのこと。家庭内での感染リスクは大きいと思うが、そうした状況における自宅療養の研究は、ワクチン接種の普及を前提としたものか。

○河合岐阜県医師会長

ワクチン接種を前提としたものではない。第4波の際にも、想定を超える患者の急増があったため、そうした状況への対応を想定して研究しているもの。

○加藤大博委員

自宅療養の際に自宅での感染を拡げないための対策はどのように考えるか。

○伊在井岐阜県医師会常務理事

訪問看護ステーションとともに介入し、感染防止について看護師とともに専門的な指導を行える体制をつくっていきたいと考えている。

○野村美穂委員

10月以降、季節性インフルエンザとコロナのワクチン接種の時期が重なる旨の説明があったが、昨年度の経験を踏まえ、具体的にどのような課題があるか。

○磯貝岐阜県医師会常務理事

昨年度はインフルエンザがほとんど流行しなかったが、今年度はどうなるか分からない。そのため、インフルエンザワクチンの接種需要は多いと思われる。そもそも、インフルエンザワクチンをはじめ、ワクチン接種は日常診療にプラスして行う業務となる。そこへ、コロナのワクチン接種も加わることとなるため、夜間勤務や休日勤務など看護師や受付等スタッフの負担は大きくなると想定され、たいへん危惧しているところ。

○野村美穂委員

現在は、第4波の山を越えた状況かと思うが、今後の見通しについて教えていただきたい。この後、夏休みやお盆の時期を迎え、人流が増えてくるとと思われる。またワクチン接種が進んで、ワクチンを打ったことからくる安心感などが人流の増加に拍車をかけるのではないかと危惧している。そういったことも考えると、今後第5波の到来も想定されるかと思うが、先生方の見解を伺いたい。

○河合岐阜県医師会長

第5波については、予測がつかない。変異株の拡大や、新たな変異株の出現、東京オリンピック・パラリンピックの開催や野村議員が言われた人流の問題など、不確定要素が多すぎて予測困難な状況である。こうした中、ワクチンの早期接種完了を目指すことが大切ではある。物理的な制約もあるが、職域接種や大規模接種などにより接種スピードが上がっていくことも期待している。いずれにしても、我々も、あらゆる状況を想定して対応していかなくてはならない。

○中川裕子委員

現役世代の接種や大規模接種が開始されるにあたって、キャンセルされた時の対応について危惧される。先日、余剰ワクチンについて県から方針が示されたようだが、キャンセル時のマッチングについては、医療機関が実施するのか、行政が実施するのか、その点も含め、想定される課題についてお尋ねする。

○高井岐阜市医師会副会長

岐阜市の状況ではあるが、現状の高齢者を対象とした接種は、個別接種9割・集団接種1割といった状況である。今後は、現役世代が中心になった場合には、診療時間内に接種できる者は少ないのではないかと思う。また、ワクチンは種類によって管理方法が異なるため、2種類以上のワクチンを1つの医療機関で管理することは困難である。そのため、1医療機関1種類が望ましい。また、効率の面では、集団接種が望ましいのは明白であり、今後の現役世代を中心にした接種では、個別接種2～3割・集団接種7～8割とならないと対応が難しいと思っている。職域接種等も活用した集団接種も大きな効果があると感じている。集団接種による効率的な接種をどれだけ進めていけるかが今後の検討課題ではあるが、時間がないこともあるため、速やかに対応していかなくてはいけない。

○河合岐阜県医師会長

キャンセル待機者に関しては、各市町村で対応を工夫されている。また、個別接種におけるキャンセルに関しては、各医療機関においてもそれぞれ工夫されており、廃棄量を減らす努力をされていると認識している。

○中川裕子委員

自宅療養の仕組みづくりについて研究が必要であるとの説明があり、危機的状況を想定した対策が必要であることを痛感したところであるが、訪問看護においては、移動距離など距離的な課題が出てくると思う。こうした取組みについては、地域を限定した取組みなのか、県全域での取組みを想定しているのか伺う。

○伊在井岐阜県医師会常務理事

各圏域で対応することを想定している。各圏域の地域医師会と相談しながら、圏域別で作り上げていくことを考えている。

○河合岐阜県医師会長

自宅療養に関しては現在研究段階ではあるが、陽性であることが判明後の入院前の段階ではリスクが非常に高いため、患者の容体と感染対策についてしっかりと対応していく必要がある。もう1点としては、一定期間入院した後の自宅療養が考えられるが、こちらについては、入院前の管理と比べると、リスクが低くなると思われる。この両面での研究を進めていきたい。

○高殿尚委員長

時間も限られていることから、最後に副委員長の藤本より一言発言させていただく。

○藤本恵司副委員長

先ほどからのお話では、病床が逼迫し入院ができない状況における自宅療養の研究ということであったが、家族に要介護者や幼児を抱えているために入院が難しい場合もありうる。そのため、こうした自宅療養の取組みについては、地域医師会にも協力いただきながら、早急に対応できる仕組みを作っていたけるとありがたい。

最後になるが、本日は河合会長はじめ、岐阜県医師会の皆様方におかれては、貴重なお時間をいただき、感謝申し上げます。本日いただいた貴重なご意見を、今後の委員会における議案等の審議や施策の評価に活かして参りたいと思う。今後もよろしくご意見申し上げます。

○高殿尚委員長

限られた時間ではあったが、医師会の皆様方には、最前線の状況をお話いただき感謝申し上げます。藤本副委員長が申し上げた通り、今後の議会審議等に活かしていきたい。

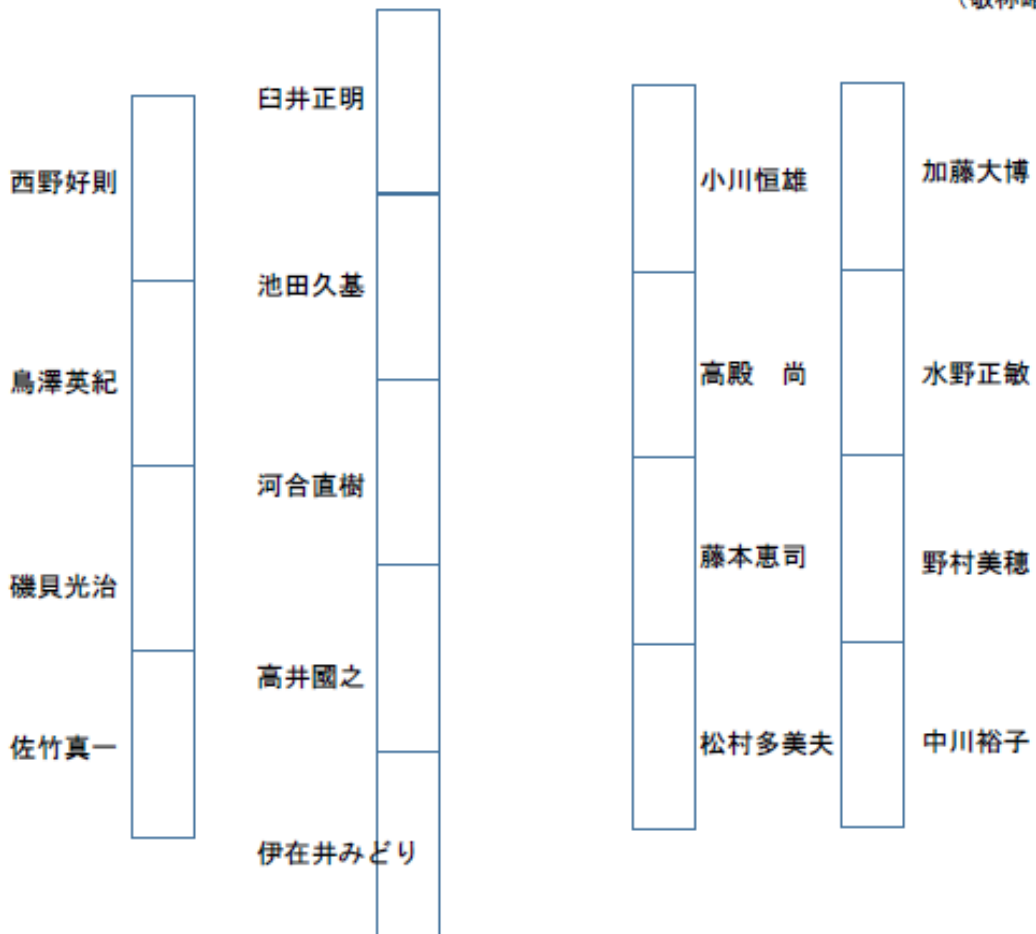
それでは、これをもって、本日の委員協議会を閉会する。

県議会厚生環境委員会委員協議会 配席図

日時 令和3年6月3日 13時00分から
場所 岐阜県医師会館5階 大会議室

ステージ

(敬称略)



傍事
聴務
席局



傍事
聴務
席局